

2026年7月2日

各 位

会 社 名 三井海洋開発株式会社
代表者名 代表取締役 社長執行役員 宮田 裕彦
(コード番号 6269 東証プライム市場)
問合せ先 経営企画部 広報グループ
(TEL. 03-5290-1240)

Next Generation Hull 初採用の FPSO Gato do Mato – 船首セクションが発 発、中国ヤードで完成へ

三井海洋開発株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役 社長執行役員:宮田 裕彦)は、FPSO Gato do Mato の建造において、住友重機械工業株式会社(以下、SHI-ME)の横須賀造船所にて船体の船首セクションが無事完成したことを発表いたします。

完成した船首セクションは日本を出港し、中国で建造中の船尾セクションと統合されたのち、船体全体は次の建造段階へと進む予定です。



FPSO Gato do Mato 船首セクション

本プロジェクトでは、3つの造船所で並行して建造を進める「マルチヤード方式」を採用しています。これにより、造船所能力の有効活用と工程の最適化を図るとともに、品質と安全の最高水準を維持しながら、プロジェクト遂行力の一層の強化を実現しています。

本 FPSO は、MODEC の Next Generation Hull (NGH) 設計を初めて採用するプロジェクトです。NGH は、建造性と拡張性を高め、プロジェクト遂行効率を向上させるとともに、ますます高度化・複雑化する海洋開発への対応力を見据えて設計されています。

当社専務執行役員 (Floating Production Solutions Business Unit 長) の井出壮一は次のように述べています。「今回の成功は、主要船体セクションの完成にとどまるものではありません。様々なイノベーションと協業を通じて、FPSO を安定的に提供する方法を常に進化させていく当社の姿勢を示すものです。SHI-ME とは過去に改造案件での協業実績がありますが、今回は新造船体での協業を本格化させ、あわせてマルチヤード方式を採用しました。これにより、日本の重工業界の海洋案件への参画の機会を増やすことができ、またそれによってプロジェクト遂行面の柔軟性とグローバルな提供体制を一段と高めることができました。またこうした機会を通じ、日本の国際競争力の強化や、海洋国家日本における人材育成の足がかりとして貢献し続ける所存です。」

「NGH 設計の採用を通じ、常に挑戦を続け、新たな協業体制を積極的に進め、より素早く強靱なソリューションをお客様に届けることによって、世界への安定的なエネルギー供給の一翼を担う当社のコミットメントをお伝えたいです。」

当該 FPSO は、日量約 12 万バレルの原油生産能力を有し、ブラジル・リオデジャネイロ南方の沖合約 200km、水深約 2,000m の海域にて、SOFEC® Spread Mooring (スプレッド・ムアリング: 多点式係留) により、係留される予定です。

本 FPSO は、当社がブラジル向けに提供する 19 基目の FPSO/FSO であり、シェル社のブラジル国内プロジェクト向けに提供する 2 基目の FPSO となります。操業鉱区である Orca フィールドでは、シェル社がオペレーターを務め、Ecopetrol 社がパートナーとして参画し、PPSA が Production Sharing Contract のマネージャーを担います。

三井海洋開発株式会社について

三井海洋開発 (MODEC) は、海洋エネルギー分野における浮体式生産設備の提供で世界有数の企業です。FPSO (Floating Production, Storage & Offloading system: 浮体式海洋石油・ガス生産貯蔵積出設備) をはじめ、設計・調達・建造・据付 (EPCI) サービスを提供するとともに、FPSO の保有・運転も行い、世界各地で総合的かつ競争力のある生産設備の提供と運転を担っています。SOFEC® Mooring Solutions は MODEC の製品ブランドであり、オフショアエネルギー分野に安全性・信頼性・革新性に優れた係留システムを提供しています。

<https://www.modec.com/jp>